

3. 2025 年度事業計画詳細

(1) 大工道具及び建築関連資料の収集及び保管

① 大工道具など実物資料の収集

a) 実物資料の収集

保存に資する国内および海外の実物資料を収集する（寄贈、購入情報にもとづき随時実施）。

② 視聴覚資料の収集と保管

a) ビデオライブラリーの多言語字幕化

ビデオライブラリー映像資料の内、必要度と優先度の高いものを選別し、多言語ナレーション版または字幕版を製作する。2018 年度より開始した計画の継続実施分。

b) 映像作品「茅採取」製作

企画展「植物×匠」（仮）展に関連し、茅の一大産地である九州阿蘇山の茅採取と茅葺をテーマに映像作品を製作する。2024 年度より撮影開始し、2025 年 7 月完成予定。

c) 映像作品「伊勢神宮茅葺」製作

企画展「植物×匠」（仮）展に関連し、伊勢神宮の茅葺屋根を支えている萱場と茅葺の技をテーマに映像作品を製作する。2024 年度より撮影開始し、2025 年 7 月完成予定。

d) 海外向け広報用映像の製作

インバウンド来館者向けの情報発信素材として 3～5 分程度の館紹介映像（「伝統建築工匠の技」を紹介する内容、英語版と中国版）を製作する。YouTube をはじめとするメディアにて展開予定。

e) VHS テープ資料の DVD 化

2023 年度より、VHS テープ資料の DVD 化（デジタル化）を進めている。今年度も引き続き約 100 点について DVD 化を進める。本事業は今年度にて完了予定。

③ 分類整理・保管

a) 収蔵庫の維持管理・整備

害虫燻蒸、温湿度管理、資料油拭き、収納器材購入等の定常管理業務を実施する。また、収蔵スペース確保のため、資料の整理、再配架を実施する。2025 年は 3 階の資料を中心に整理を実施する。

b) 資料データベースの整備

資料管理業務の効率化を目的に、道具・文献・映像・写真・図書・論文資料のデジタル化・データベース化を継続的に推進中。新規収集資料の登録、写真撮影、配架作業のほか、登録番号見直しを行った資料（約 3,200 点）の配架替えを実施する。

(2) 大工道具及び建築関連資料等の展示及び公開

① 常設展示

a) 常設展示の保守管理

器具破損対応等の保守管理、道具の油拭きならびに借用品の賃借契約更新を行う（定常業務）。また本年度は経年劣化した照明器具の全面更新を行う。

b) 常設展示の部分改装

開館 40 周年記念事業の一環として、昨年度より展示解説の多言語化を進めている。本年度は音声ガイドの追加（フランス語、ドイツ語）を実施する。

c) 関連印刷物の発行

常設展示図録のインバウンド対応用英語冊子の適正在庫量を確保する。

② 企画展の準備と実施

40 周年記念事業の一環として、本年度から来年度にかけては、「世界における当館のブランド価値向上」を目指して、海外巡回展、ユネスコ無形文化遺産関連企画展を開催する

a) 企画展「建具解体新書 ほどく・くむ」

ユネスコ世界無形文化遺産に登録された「伝統建築工匠の技」17 の選定保存技術のうち「建具製作」の技術を取り上げ、建具の解体修理を通して受け継がれてきた建具製作の伝統技術を紹介するほか、体験イベントおよび講演会を実施する。

会場：当館 1F 多目的ホール

会期：2025 年 3 月 8 日～5 月 11 日

b) 企画展「植物×匠」（仮）展（東京会場・神戸会場）

「伝統建築工匠の技」17 の選定保存技術のうち、「桧皮葺・柿葺・茅葺」「茅採取」「檜皮採取」「板材製作」などを、植物学と建築学の両方の視点から紹介する展覧会を実施する。本展は 2025 年夏に東京（国立科学博物館）で開催した後、秋に当館にて開催する。

東京会場：国立科学博物館

会 期：2025 年 7 月 29 日～9 月 28 日

神戸会場：当館 1F 多目的ホール

会 期：2025 年 10 月 11 日～12 月 14 日

c) 「第 20 回伝統工芸木竹展（第 4 回神戸展）」

日本伝統工芸展の木竹工部門で隔年開催される「伝統工芸木竹展」の関西展を日本工芸会と共同して開催する。

会場：当館 1F 多目的ホール

会期：2025 年 5 月 24 日～6 月 29 日

d) 「一脚展 2025」

兵庫県で活動する家具作家が過去一年以内に製作した新作の椅子を一脚ずつ展示する企画展を開催する。

会場：当館 1F 多目的ホール

会期：2025 年 9 月中旬～9 月下旬（予定）

e) 海外巡回展 JapanHouse 「Masters of Carpentry: Melding Forest, Skill and Spirit（ロサンゼルス用タイトル）」（各会場で別タイトルとなる予定）

外務省が主催する JAPAN HOUSE 巡回企画展第 6 期を実施する。実施時期は、2024 年 11 月 20 日～2025 年 1 月 22 日にロサンゼルス、2025 年 3 月 10 日～7 月 10 日にロンドン、2025 年 9 月～2026 年 4 月（調整中）にサンパウロを予定している。

会場：JAPAN HOUSE ロンドン、JAPAN HOUSE ロサンゼルス、JAPAN HOUSE サンパウロ

会期：2024 年 11 月～2026 年 4 月の見込み

f) 企画展「日光の金工と彩色—社寺建築の謎を解く—」（東京展）

2024 年開催企画展の巡回展示を実施する。ユネスコ世界無形文化遺産に登録された「伝統建築工匠の技」17 の選定保存技術のうち「金工」「彩色」「漆塗」「漆生産」「金箔製造」

の技術を、日光の社寺の修理事業を通して紹介するほか、各種技術に関する実演・体験イベントを実施する。(東京国立博物館・伝統建築工匠の会と共催を予定)

会場：東京国立博物館平成館 1F

会期：2025 年 10 月上旬～12 月上旬 (予定)

g) WWD2025 日本「大工と大工道具 国際フォーラム」

2025 年 3～10 月国内各地で開催される国際木文化学会他による WORLD WOOD DAY2025 のプログラムとして、海外の大工が参加するセミナー、実演イベント等を開催。

会場：当館 1F 多目的ホール・B2F 木工室

期間：2025 年 7 月 29 日～8 月 1 日

h) 企画展共通備品の整備

企画展開催に必要な備品 (映像機器、サインスタンド等) を適宜購入する。

③ 企画展の中期的準備

a) 「鍛冶の名工」(仮題)

「鍛冶の名工」と称される工匠を取り上げる展覧会を 2026 年春に開催する。これまで「千代鶴是秀」「宮野鉄之助」等を開催。本年度は関連調査を実施した上で、企画案、展示計画を作成する。

b) 「ジョージ・ナカシマと吉村順三」(仮題)

米国で活躍した家具作家と同時代の建築家の展覧会をギャラリー・エークウッドと共催。2026 年秋の東京・神戸巡回展。本年度は関連調査を実施した上で、企画案、展示計画を作成する。

(3) 道具及び建築関連資料等に関する調査研究及び研究誌の発行

① 建築技術と道具に関する研究

a) 韓国

日本と深い関わりをもつ中国・韓国の木造建築と道具に関する調査研究を実施している。本年度は朝鮮時代の最後の宮大工と言われた裴喜漢 (ベヒハン) 氏の口述書『朝鮮木手(モックス)・裴喜漢の生涯、この朝鮮の鋸も錆びてしまった』の和訳を完了する。

b) ヨーロッパ

常設展「世界を巡る」の改定を目的として、フランスの巡礼大工に関する研究を行う。本年度はコンパニオンと遍歴修行について、パネル解説と装束および作品展示を行う予定であり、これに関する調査研究を実施する。

c) 大工技術書

大工技術書「鎌倉造営名目」、「黒田宗信伝来文書」、「萬木碎」に関する読解研究を継続的に実施中。本年度は「鎌倉造営名目」する論考を 1 点学会誌に投稿予定。

d) 建築部材の加工技術 (部材加工痕)

古代～近世前半の建築部材の加工痕研究を継続中。昨年度継続事業として大徳寺発見鑿 (近世初期) の復元品にて使用実験を実施し紀要に成果をまとめる予定。

e) 大工・鍛冶への聞き取り調査

名工と讃えられる大工や鍛冶を対象に、既往研究調査ならびに本人・関係者への聞き取

り調査を、中期的課題として継続的に実施している。本年は昨年に引き続き数寄屋大工に関する聞き取り調査を当館研究紀要にて報告する。

f) 左官への聞き取り調査

道具の名称と使用方法を中心に、左官職人と鍔鍛冶への聞き取り調査を実施している。本年は昨年からの継続として、久住章氏の磨き手法について鍔の形状と壁仕様の変遷、そしてチリ箒のつくり方と使用法に関する調査を実施する。

g) 木材の利用・調達の調査

明治後期から戦前にかけて社寺境内外の森林を対象に作成された施業計画書を対象に、社寺林資源の木材利用に関する研究を行う。本年は史料収集および翻刻を進める。

h) 情報収集活動ならびに研究者ネットワークの形成

道具と建築に関する情報収集を行う。現地調査、学会参加、博物館視察、出版物収集などを随時実施。また必要に応じて館外学識者との勉強会を適宜開催し、研究ネットワークの構築と館職員の知識向上を図る。

② 出版活動（研究成果の公開）

a) 研究紀要 No. 36 の発行および No. 37 の準備

調査研究成果の公開を目的として、研究紀要 No. 36 を 2025 年 3 月下旬に発行する。また並行してオンライン刊行を進め、印刷物の配布を極力減らす。本年後半には No. 37 発行に向けて企画ならびに原稿執筆を進める。

(4) 教育、学術及び文化に関する普及及び支援活動

① 諸施設への協力

a) 諸施設への協力

各種学校、博物館、研究機関、職人団体等への情報提供および資料貸出、実習生の受け入れ、館外での受託講演、出張授業、研究協力などを行う（定常）。

② 教育・文化普及活動の実施

a) 開館 40 周年記念「伝統建築工匠の技」セミナーの開催

館外学識者や技術選定保持者を講師に、ユネスコ世界無形文化遺産に登録された「伝統建築工匠の技」17 の選定保存技術に関する連続セミナー等を開催する。

b) ワークショップの開催

「ちよこっと木工」（工作ワークショップ、土日祝日）、「大工と一緒に鉋削りに挑戦!」、「大工道具にチャレンジ!」、春休み・夏休み子ども体験教室等、木工作家によるワークショップを開催する。また、開館 40 周年記念イベントとして「子ども棟上げ体験」（2 月）、「積み木と木のたまプールで遊ぼう!」（3 月）を多目的ホールにて開催する。春・秋に茶室の特別公開（呈茶含む）を実施する。

c) 木工室の管理運営

木工室を安全に管理運営する。イベント開催に必要な道具、機械、消耗品等を適宜購入する。

③ ボランティア活動の管理・運営

a) 運営管理

大工道具に関心ある希望者をボランティアスタッフとして受け入れ、(1)館蔵品の手入れや整理等の補助、(2)常設展示の展示解説、(3)館内プログラムの運営およびその補助、(4)アウトリーチ活動補助等に携わってもらっている。これら活動の管理運営ならびに、スキルアップのための研修会・見学会等を随時実施する。

b) 茶道ボランティア運営管理

館内の茶道イベントに対する補助を目的として竹中工務店茶道部にボランティアスタッフとして参加してもらっている。これに付随する稽古費の支払い、消耗品の購入等の運営管理を行う。

(5) 竹中大工道具館の管理・運営（管理業務）

① 管理・運営一般

a) 財務会計処理業務一般

本館活動のための資金運用を含めた財務会計処理業務を適正且つ着実に実施する。

b) 入館受付、団体受付、展示説明他

団体の自由来館受入れ、解説希望グループ向け対応者の調整を着実に行ない、入館時の受付混雑緩和のための事前手配に努める。個人の来館者、外国人来館者に対しても音声ガイド活用の案内等を行い、満足される対応を行う。また、現在子ども向けに配布しているワークシートの見直しや改善、英翻訳等を順次実施する。

外部システムの利用による木工室イベント申込みの受付業務をスムーズに行い、並行して外国人来館者のための英語ページ公開や改善も継続して行う。

解説・WS各ボランティアの英語対応力向上の勉強会等の開催を検討、適宜進める。

② 広報活動

a) 広報一般

各種広報媒体へ企画展やイベント活動等を含めた情報提供を積極的に展開し、広報後の礼状送付などアフターケアを含め継続して報道してもらえるよう努める。博物館施設等のイベント案内に特化した SNS の利用、新規開拓に努める。

b) 広報印刷物の発行と送付

気軽に読んでもらえる広報誌「ドウグバコ」（年2回発行、作成部数6月：3,000部、12月：3,000部）と当館の最新イベント案内を掲載した「イベントカレンダー」（年2回発行、作成部数6月：3,000部、12月：3,000部）を発行し、関連施設、来館者などに配布ならびに発送する。

c) ウェブサイト・メールマガジンの維持・管理

広報活動の一環として、一般向けに IT を利用した、ウェブサイトの定期的更新および企画用特設サイトの構築、メールマガジンの定期発行（隔月年4回）、YouTube を含めた SNS 投稿を実施する。また海外対応のため、英語対応を充実させる。

③ ミュージアムショップの運営

来場者サービスの一環として「木」「道具」をコンセプトにミュージアムショップを運営している。購入者のニーズを検討しながら、当館のイメージ向上につながる新商品の開発を生産者と連携しながら進めていく。

④ 茶室の維持・管理

敷地内の茶室を適切に維持管理し、春・秋に特別公開と呈茶イベントを実施する。

⑤ 休憩室の維持・管理

定期的なイス、テーブル等什器の清掃・消毒に努めるとともに、手指の消毒できる体制を整備し休憩室を適切に維持管理する。来館者が庭園を見ながらほっとひと息つける心地よい休憩場所を提供する。

⑥ **館の情報インフラの強化・管理**

運営に必要な作業環境および情報インフラの更なる充実とセキュリティ強化を図るとともに、特に情報発信の手段としてメインとなるホームページの充実を図りユーザーの利便性を向上する。

⑦ **理事会・評議員会、役員見学会の開催**

2～3月に決算の定時理事会及び定時評議員会、11月に次年度の事業計画・予算の定時理事会及び役員見学会(役員全員)を開催する。また、必要に応じて臨時理事会、臨時評議員会を開催する。

⑧ **財団法人事業報告会への参画**

(公財)竹中育英会、(公財)ギャラリーエークウッドと共に出席し、本館の事業の進捗などについて報告、及び運営上の情報交換さらには企画展の共同開催についても情報交換を行う。

⑨ **運営管理の改善と効率化**

館の運営に係る管理費(固定経費)をより精度よく把握するとともに、事業費(変動費)の予実管理の充実を図ると共に効率よい運営を推進する。